

航友会だより

目 次	
代議員会開催	1
昭和61年度事業報告	1
昭和61年度会計決算報告	2
昭和62年度事業計画案	2
同意会開催	2~3
留学研究コースを新設	3
ヘリ整備士養成施設の認可	4
中日新聞社	
教材用にH500を贈呈	4
不明者調査	4

発行 中日本航空専門学校航友会事務局 〒501-32 岐阜県関市迫間1577 中日本航空専門学校内 ☎0575-24-2521

代議員会開催



和六十二年度代
議員会が昭和六十二
年十一月八日(日)、名
古屋市中村区のホテ
ル「キヤッスルプラ
ザ」において行われ
ました。

- (1) 昭和六十一年度事業報告
- (2) 昭和六十一年度会計決算報告
- (3) 昭和六十二年度事業計画案
- (4) 昭和六十二年度会計予算案
- (5) その他

き、左記の議題について討議
されました。

1、航友会組織の強化拡充

- (1) 総会の開催

昭和六十一年六月二十二日、
中日本航空専門学校にて、
会長以下六十一名の参加に
より実施。

- (2) 沖縄支部の設立

右記総会にて、中日本航空
専門学校航友会沖縄支部と
して承認される。

- (3) 支部設立の推進

沖縄支部以外の支部につい
ては、次年度持ち越しとする
。また、沖縄支部活性化
のため支部内会合をする。

- (4) 代議員会の開催

昭和六十一年十月二十六日
(日)、愛知県名古屋市栄、「神
野学園インフォーメーション
センター」にて、会長以
下二十一名により実施。

- (5) 役員会の開催

昭和六十二年七月十八日(土)
愛知県犬山市「東屋」にて、
副会長(二名)以下十一名に
より実施。

2、会報の発行

- (1) 昭和六十一年十二月二十三
日付で配付対象を、全卒業
生(非会員の卒業生を含む)
とし、「航友会だより第三号」

を発行。

3、会員名簿の整理

- (1) 六十年度卒業生の調査
ハガキおよび、電話による
調査の結果、約一割が不明。
- (2) 六十一年度卒業生の調査
現在調査継続中。
- (3) 六十年度までの全不明者の
追跡調査

本年度発行の会報に不明者
リストを掲載し、情報を募
った。この結果十一名の者
が判明した。全卒業生二、三
四一名中、不明者は約三四
十名(一五%)である。

4、会員名簿の発行

- (1) 本年一月、最新版の名簿を
一、〇〇〇部発行した。六十
一年度卒業生に無料で配布。
(約二三〇部)全卒業生に対
し、名簿販売の案内を出し
二二二部を売却。



昭和61年度事業報告

3 会員名簿の整理
 (1) 昭和六十一年度卒業生の調査

2 会報の発行
 (1) 「航友会だより」は定期的に発行し、記事内容の充実をはかる。

1 航友会組織の強化拡充
 (1) 代議員会および、同窓会の開催
 (2) 沖縄支部の活性化
 (3) 支部設立の推進
 (4) 役員会の推進

昭和62年度事業計画案

会活動は進みつづけています。航友特

6 昭和六十二年度卒業生への記念品
 5 在学生、入学生に対するPR活動
 (1) 追加の分=六十一年度卒業生
 (2) 改訂の分=移動者

(2) 同窓生不明者の追跡調査

に昭和六十一年度事業計画の在校生および、新入生に対するPR活動は、本会報を配布することによって、航友会の目的および、明確化をねらつたものであります。

また、昭和六十二年度卒業生への記念品は、会員名簿のほかに、航友会名入りの名刺入れを進呈しました。卒業生のみなさん、愛用していますか。

今後も航友会の活性化を目指すため、会の運営、事業について会員のみなさんからのご意見、ご希望、提案など航友会事務局

(五〇五七五二四一二五二二)までお寄せください。

昭和61年度会計決算報告

▶収入の部

項目	金額	摘要
前年度繰越金	¥ 7,995,229	
会費	¥ 1,865,000	S 61年度入学生 373名
会費	¥ 2,190,000	S 62年度入学生 438名
会費	¥ 20,000	新入会者 4名
会費	¥ 114,000	総会懇親会 57名
寸志	¥ 50,000	教育後援会より
名簿売上	¥ 191,400	
利息	¥ 537,247	定期解約と定期利息
合計	¥ 12,962,876	

▶支出の部

項目	金額	摘要
総会費	¥ 614,855	S 61.6.22実施
会報発行費	¥ 360,000	S 61.12.23会報第3号発行
会議費	¥ 469,690	S 61.10.26実施 代議員会(1回)
支部設立援助費	¥ 81,170	沖縄支部援助
同窓生名簿発行費	¥ 771,690	再版 400部 新版 1,000部
会員名簿管理費	¥ 140,000	電算処理
事業運営費	¥ 158,870	
通信費	¥ 141,460	
雑費	¥ 8,169	
次年度繰越金	¥ 10,216,972	
合計	¥ 12,962,876	

昭和62年8月10日 会計監査=今泉善孝・佐藤伸幸



代議員会終了後、引き続き会場を移して、同窓会が催されました。まず、上村同窓会会長によるあいさつ。続いて萩尾学生部長の乾杯の音頭とともに、グラスを片手にみなそれぞれの旧交を深めました。
 (三面につづく)





(二面のつづき)
会のなかばでは、各期生毎の自己紹介もあり、隣席された奥田、和田両先生も教え子が立派に成長した姿を感慨深げにご覧になつておられました。

また、奥田先生からはお祝辞をいただきました。先生のかくしゃくとしたお姿を拝見して、江南時代を懐かしく思い出した会員もいたことでしょう。

約二時間半にわたつた、同窓会も終了に近づき、本校の発展と同窓生の再会を誓い、和田先生の万才三唱をもつて、閉会となりました。

今年も、同窓会への多数の参

留学研究コースを新設



アメリカ・スバルタン・エアロカレッジと姉妹校提携の調印を終え喜びの首脳陣 写真左よりロバート・E・ドーデル理事長、鈴木校長、ウイリアム・A・オース校長、篠原留学研究コース主任教授



留学研究コース第一期生（現、新明和グランドサービス勤務）松原直樹君

本校では、故人となられた、前理事長松下正寿氏（元立教大学総長）の「国際化社会に立ち向かうためには、とくに日米親善交流を進めなければならない」という教訓を生かし、昭和六年九月、米国F.A.A.駐日代表の推せん校でもある、スバルターン・エアロカレッジと姉妹校提携を結び親交を深めています。本校卒業後、希望に応じ「留学研究コース」へ進級し、本校にて留学に必要とする英会話、技術英語等を学んだ後、スバルタン・エアロカレッジへ留学します。

その第一期生は、昨年優秀な成績で同校を卒業し、アメリカ航空局自家用操縦士免許を取得して帰国しました。

また、第三期生として四名が決まっており、今秋渡米予定です。

中日新聞社 教材用にH500を贈呈

その第一号機として中日新聞社の好意により、ヒューズ369HSヘリコプター（JA9099）の贈呈を受けた。

可を得て、すでに運輸大臣の認可を得て、航空整備コース（五十名）に続き、昭和五十七年にテストグループとして発足した、ヘリコプター整備コースが昭和六十三年四月一日をもって、運輸大臣の航空従事者養成施設（回転翼航空機ベル47型）に指定されました。

これは、在学中に三等航空整備士（四十名）の資格が取得できる、日本では唯一のコースである。

近年、わが国のヘリコプター業界の主流が、タービンヘリに変わりつつあるところから、本校では、教材のベル47 G 2ヘリに加えて、ヒューズ500ヘリを導入することになつたが、



学園を代表して鈴木祥一郎理事が感謝状を贈り、鈴木英夫学校長がお礼の言葉をのべた。

同機は十四年九か月間にわたり、洋上取材や人命救助などで大活躍した。愛称「まなづる」で縦飛行時間は五、六二一時間であつた。

可を得て、すでに運輸大臣の認可を得て、航空整備コース（五十名）に続き、昭和五十七年にテストグループとして発足した、ヘリコプター整備コースが昭和六十三年四月一日をもつて、運輸大臣の航空従事者養成施設（回転翼航空機ベル47型）に指定されました。

これは、在学中に三等航空整備士（四十名）の資格が取得できる、日本では唯一のコースである。



来春の技能審査に向けて、実習に励むヘリコプター整備コースの学生たち

ヘリ整備士養成施設の認可

存じの方は、航友会事務局までご連絡くださるようお願い致します。連絡の折りには、ご面倒でも科・期別および組を連絡くだされば、事務処理を迅速に行なうことが出来ますのでよろしくお願い致します。

総合名簿の発行は、昭和六十四年三月を予定しており、この新名簿の発売につきましては、次回発行の会報にご案内致します。

なかなか十分な対応が出来ない状態になつております。昭和六十四年、春の総合名簿発行に向けて、現在、昨年度の卒業生(整備科十七期、電子機械科五期、技術科一期)の近況並びに、一昨年度以前の不明者調査を行つておりますが、依然として下記の方々の住所が不明となつております。総合名簿に対しても出来るだけ最新の内容としたいと思いますので、お手数とは存じ

不明者調査の依頼および 会員名簿のお知らせ

名簿委員会では、毎年卒業生からの住所および、勤務先の変更通知や追跡調査により、名簿発行の都度修正を重ねてまいりましたが、二千五百名を越すO.B.諸兄の住所や勤務先等の変更には、同窓生皆様の連絡のみ

【住所不明者一覧】

■航空整備科	1期
木村典夫	松本豊二
■航空整備科	2期
前田裕基	久田鉢治
三好一雄	吉田光基
■航空整備科	3期
阿山正明	楠木信貴
玉木好弘	藤村重義
岡崎昭範	相馬仁司
松下修治	
■航空整備科	4期
中村義文	辻博行
菅原研郎	村上巧
■航空整備科	5期
大瀬英彦	鎌本英明
林武司	比嘉一晴
一宮昌幸	大城盛宣
星野昌義	長田秀男
渡邉重徳	丸谷英雄
■航空整備科	6期
鎌木光一	浅田弘志
川島浩	高田種人
田代知徳	吉川己喜夫
早矢仕守男	泉名良美
宇野章	岩永正雅
塙見康博	
■航空整備科	7期
佐々木伸宏	博村光政
伊藤元乃	井川正裕
喜屋武康義	小東洋次
下地義弘	田中洋次

里政善	小東浅次	成宮秀樹	西芝清	長野剛	古賀正弘	下山暢	竹迫正昭
中西康仁	光本恵介	川口邦夫	鈴木芳雄	野本英晃	玉川和行	柴原龍二	
廣瀬紀志	田中貢	徳岡敏行	大谷信夫	■航空整備科	14期		
■航空整備科	8期			塙田勝典	新井英記	慶田佳昭	樋口豊
山城勉	岩切純一	我妻幸	長谷川昌樹	松川信一	巻敬士	元本康次	久保田太人
中原勝広	長上由喜	前田勲		仲西宏克	藤本秀也	学人勇誠	山田光博
■航空整備科	9期			田中秀之	大隅和人	一幸李孝	龟井口下章人
新垣善三	浦上了司	柿岡広志	神谷弘幸	栗山順司	長手子康	飯鈴木	川原孝博
長瀬敬義	水口優	箕輪万吉	宮脇保信	田口正志	兼子正	■航空整備科	15期
島三樹夫	市岡栄司	中釜忠彦	如田敦仁	福原計幸	松下博	石橋穂	高橋宏武
鎌倉雄次	池田至仁	今津悦治	久田洋一	硝田剛美	樹内靖夫	豊知伸	原河野
松井直人	河野邦宏	河井啓悟	新留正司	黒松祐之	田中正邦	武士義	藤本寛治
中村晃				水永榮真	田中正邦	山口村義	本幹哉
■航空整備科	10期			眞理慈	長瀬巳津留	今村山	武士義
川下和也	塙見千泉	疋田祐司	宅間勝也	■航空整備科	16期		
竹中義孝	竹本勝美	松波秀明	真鳥作衛	田中敦	浜田章裕	佐野義己	東条健一
植田武志	谷口哲二	刈川幸久	木村典夫	永田浩治郎	森田孝敏	梅村淳志	塙圭生
山口繁樹	山崎公弘	前田弘一	今井祥隆	藤原聰	井裕幸	野上豊一	石山萬
木松功	白坂剛	福本薰	田村渡	■航空電子機械科	1期		
佐藤義	荒平一義			佐久間健次	森田和典	石川弘之	小田武俊
■航空整備科	11期			森一司	山口仁	住田貴之	井裕裕之
山田康成	吉川平八郎	秋田敏夫	萩原一之郎	鈴木仁	高橋義一	李信	新井樹之
小迫恭平	光永真二	二貳貞一	田中義一郎	■航空電子機械科	2期		
知名剛	剛治	三井弘	水上陽一	宇佐美昇	浦添博	田畠清	崎浜秀
久保田主税	同崎昭信	平石栄一	田中雅博	仲松徳	小川田清	煙田誠	岡村賢
増田重	石井暢義	白石朝文	新井正和	有則	森川清	川内徳	岳志徳
高木千里	森聰明	大鷗朝	井和仁	照屋寛	谷安	志村誠	志村徳
■航空整備科	12期			屋幸	晴香	嶽志徳	大庭良
佐藤毅	田中秀一	知花真二	前田孝造	上博幸	莉井上	志村徳	大庭良
恩智浩司	柳修一卓	三保博	造之助	司	玉剛弘	正大	大庭良
延時秀治	藤原卓	樹	勤	長谷川慎二			
■航空整備科	13期			■航空電子機械科	3期		
今井裕孝	河野英二	今城洋一	奥宮清夫	大内義忠	渕谷厚	星正	林江崎
小田敬明	弓月憲市	菊地信一	清成敏夫	山田康彦	伸伊藤昌輝	久佳新	健和仁
藤田芳彦	瀬尾利幸	清大	高橋拓和	伊藤輝	松本松	新吉	示
石田直樹	田村秀二	井一三	川口和之				